

株主通信

第156期中間

[2018年4月1日～2018年9月30日]

CONTENTS

- | | |
|-------------|-------------------------|
| 01 株主の皆様へ | 09 特集:SHIMADZUが拓く「質量分析」 |
| 05 業績ハイライト | 11 TOPICS |
| 06 連結財務諸表 | 13 株式情報 |
| 07 セグメント別概況 | 14 会社概要 |

『世界のパートナーと社会課題の解決に
取り組む企業』を目指して



高速液体クロマトグラフ質量分析計「LCMS-9030」
※表紙掲載製品の説明は10頁をご覧ください。



中期経営計画の着実な実行で
さらなる社会課題の解決を
目指します。

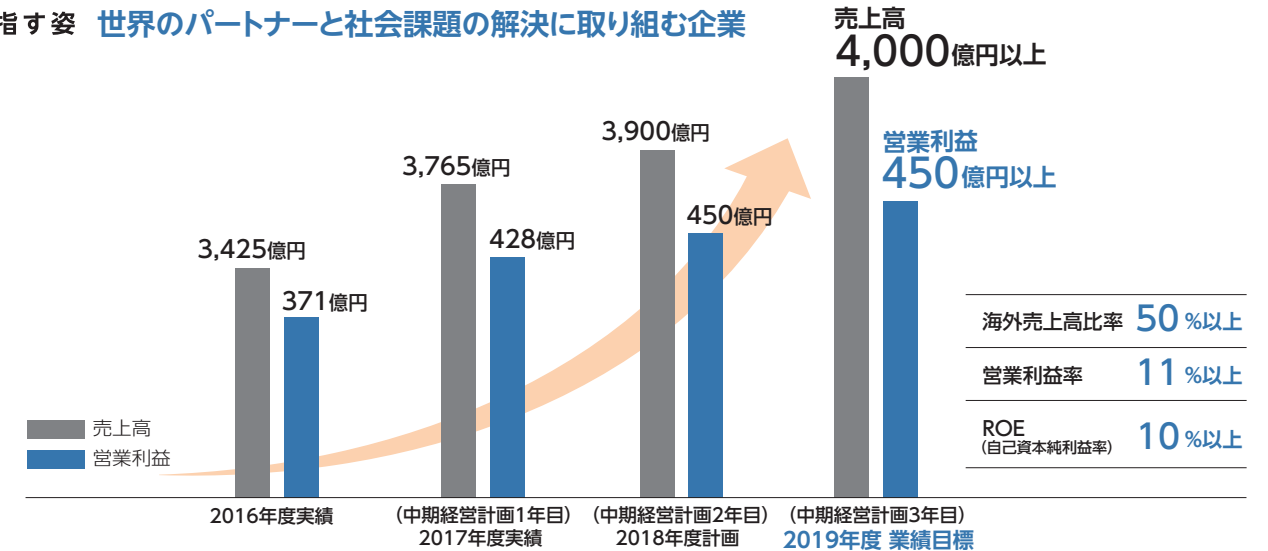
2018年12月
代表取締役 社長

上田輝久



中期経営計画 2017年4月～2020年3月

目指す姿 **世界のパートナーと社会課題の解決に取り組む企業**



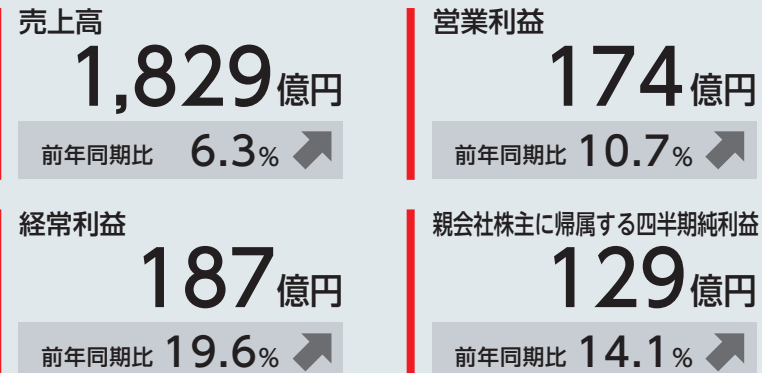
社 是

科学技術で
社会に貢献する

経営理念

「人と地球の健康」への
願いを実現する

第156期 上半期 連結業績ハイライト



株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く
御礼申し上げます。

ここに第156期上半期(2018年4月1日から2018
年9月30日まで)の業績ならびに今後の見通しをご報
告申し上げます。

当上半期の業績

当上半期の世界経済は、北米では雇用・所得環境の
改善や好調な個人消費により、景気の回復が続いま
した。欧州では英国のEU離脱問題などがあるものの、

堅調な内需を背景に、景気は緩やかに回復しました。
中国では政府政策によるインフラ投資の抑制などが
あるものの、堅調な民間投資などにより、景気は底堅く
推移しました。また、東南アジアでは景気は緩やかに
回復し、インドでは景気の回復が続きました。日本では
企業収益の改善を背景とした雇用の改善や設備投資
の増加により、緩やかな景気回復が続きました。

こうした情勢のもとで当社グループは、中期経営
計画に沿って、「世界のパートナーと社会課題の解決に
取り組む企業」を目指し、「アドバンスト・ヘルスケア」

など成長分野への投資、AI・IoTを活用したアフターマーケット事業の拡大や重点機種競争力強化などによる収益力強化、また組織基盤の変革など、成長に向けた施策を積極的に進めています。

当上半期の業績につきましては、売上高は1,828億5千4百万円(前年同期比6.3%増)となり、営業利益は174億3千8百万円(同10.7%増)、経常利益は186億7千1百万円(同19.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は129億1千6百万円(同14.1%増)となりました。

中間配当金につきましては、普通配当を前年中間配当金に比べ1株当たり2円増の13円とさせていただきます。

今後の見通し

2018年度の今後の見通しにつきましては、緩やかな景気の回復が継続すると予測される一方、米中貿易摩擦の激化、中東を中心とした地政学的なリスク等、今後の見通しに対する不透明性は徐々に高まっています。

このような状況の中で、当社グループは、中期経営計画2年目の2018年度を、最終年度の目標達成に向けた重要な年度と考え、社会課題や顧客課題を解決するため、以下の諸施策を着実に遂行し、持続的成長と企業価値の向上に努めてまいります。

1 『成長分野投資』による 新たな事業成長基盤の獲得

- ① 当社事業の根幹を成す開発力を強化するため、顧客や競合の動向に対する感度を高め、新たな価値を提供できる新製品・新サービス開発のための投資を積極的に行います。
- ② 成長4分野として定めた「ヘルスケア」、「インフラ」、「マテリアル」、「環境・エネルギー」の重点分野では、新しいビジネスモデルの創出を目指し、事業部連携や社外連携を強化し、具体的な事業化を進めます。
- ③ 特に「ヘルスケア」に関しては、事業化に向けた活動を引き続き強化し、次世代の検査事業などの構築に向け取り組みを進めます。当上半期では、昨年6月に子会社化したAlsachim SAS社で開発した免疫抑制剤試薬キットを欧州で販売開始しました。下半期には、国内でも販売を開始いたします。
- ④ AI・IoT・ロボットなど、将来の事業拡大に不可欠な技術領域において、海外との外部連携を含め、開発体制の強化を進めます。

2 『収益力の強化』による 持続的成長力の向上

- ① 収益改革事業は、既存の事業領域にとらわれることなく、目指すべき事業の形態を定め、事業構造

改革を進めます。

- ② 試薬・消耗品などのラインアップ強化とアフターマーケット事業の拡大を進めます。今年7月に子会社化したinfraserv Vakuumservice GmbH社は、欧州におけるターボ分子ポンプの販売とともに、アフターマーケット事業の拡大を目指すものです(11頁をご参照)。また、リカーリングビジネス(顧客に持続的なサービスを提供し、継続的に収益をあげる新たなビジネスモデル)の構築・実現に努めます。
- ③ RPA・AI・IoTなどをさらに活用し、現場の各種検査やデータ解析の自動化などを進めることにより、労働生産性の向上を図ります。

3 『組織基盤変革』による 強固な事業基盤確立

- ① SDGsを念頭に置いた事業や環境経営の強化を通して、事業戦略と社会・環境貢献を両立させ、社会の持続的な成長に貢献できる事業の拡充に努めます。
- ② 「働き方改革」の取り組みを、顧客・社会の要求に対して高いレベルで対応できる個人・組織の変革と捉え、市場変化に迅速に対応できる企業運営体制の構築を進めます。

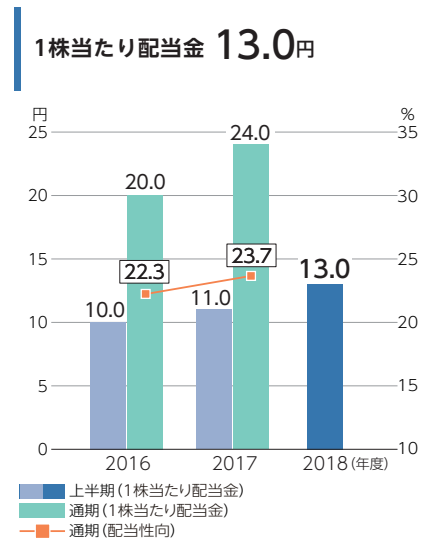
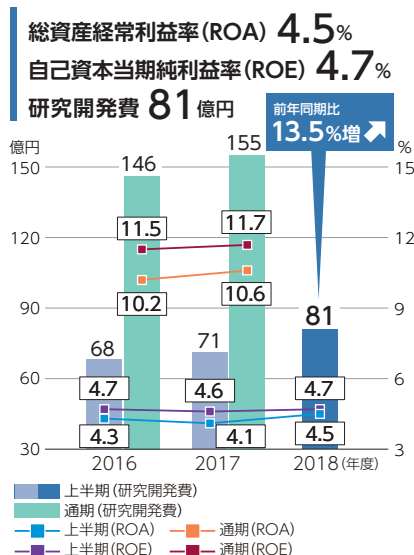
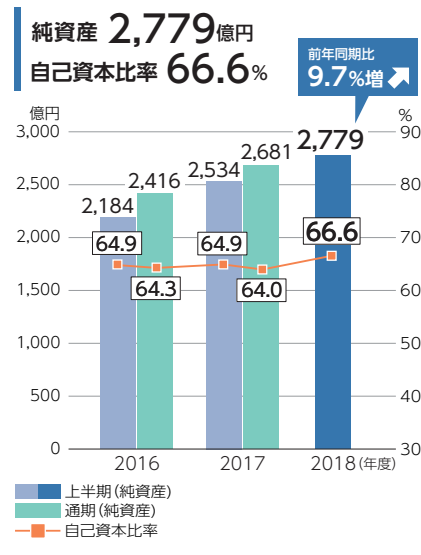
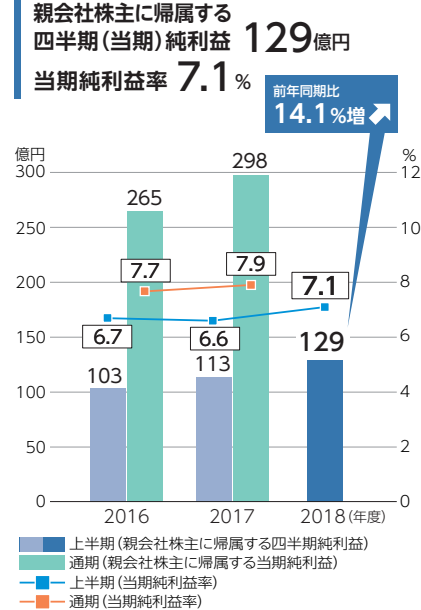
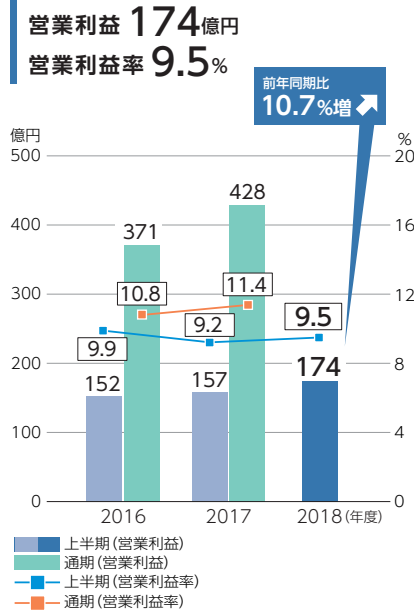
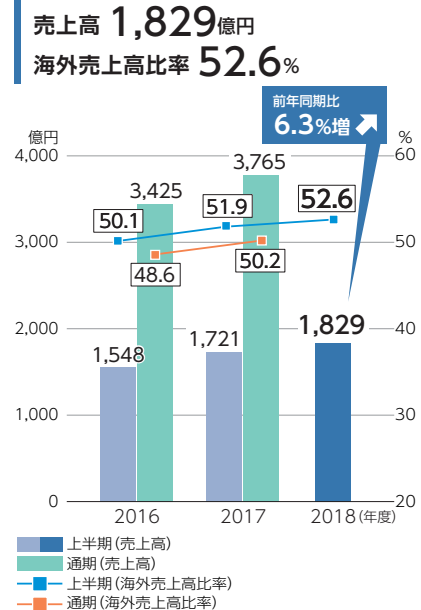
株主の皆様には、今後とも引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

持続可能な開発目標 (SDGs)



当社の事業を通じたSDGsへの貢献目標





連結貸借対照表

(単位: 億円)

科目	当上半期末 (2018年9月30日)	前期末 (2018年3月31日)
資産の部		
1 流動資産	2,761	2,842
1 固定資産	1,409	1,343
有形固定資産	884	841
無形固定資産	111	92
投資その他の資産	414	410
1 資産合計	4,170	4,185
負債の部		
流動負債	1,248	1,220
固定負債	143	285
負債合計	1,391	1,505
純資産の部		
2 株主資本	2,672	2,585
2 その他の包括利益累計額	106	92
非支配株主持分	0	4
純資産合計	2,779	2,681
2 負債純資産合計	4,170	4,185

POINT 1 総資産の減少 たな卸資産63億円、固定資産が66億円それぞれ増加しましたが受取手形及び売掛金が131億円減少したことなどにより、総資産は15億円減少しました。

POINT 2 自己資本比率の向上 利益剰余金の増加などにより、自己資本比率は2.6ポイント向上し、66.6%となりました。

POINT 3 上半期の過去最高を更新 売上高は前年同期に比べ6.3%増加し、上半期では過去最高の1,829億円となり、営業利益174億円、経常利益187億円、親会社株主に帰属する四半期純利益129億円と全て過去最高額を更新しました。

配当のご案内 中間配当金 1株当たり13円

配当金は、2018年12月4日(火)以降お受け取りいただけます。

配当金のお支払いに関するお問い合わせ先
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
☎ 0120-094-777 (通話料無料) 土・日・祝日等を除く9時~17時

詳しくは当社ホームページより
「決算短信/決算説明会資料」をご覧ください。

<https://www.shimadzu.co.jp/ir/library/finance.html>

※当期より「税効果会計に係る会計基準」の一部改正(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を適用しており、過年度については遡及適用後の値を記載しています。

セグメント別概況



最先端研究を支援することでイノベーションに貢献

■北米では、ヘルスケア向けに液体クロマトグラフ・質量分析システムが好調に推移しました。欧州では、大学・研究機関や食品・受託分析向けなどに液体クロマトグラフ・質量分析システムが好調に推移しました。中国では、政府主導の汚染源対策強化により、環境計測機器が大きく売上を伸ばすとともに、受託分析向けにガスクロマトグラフも好調に推移しました。東南アジアでは、製薬向けに液体クロマトグラフが堅調に推移しました。インドでは、ガスクロマトグラフの新製品が好調に推移したものの、製薬向けの液体クロマトグラフが低調に推移しました。



高速液体クロマトグラフ質量分析計

■日本では、医薬、化学分野での設備投資減少により質量分析システムが減収となりましたが、輸送機関連分野で非破壊検査システムが好調な他、新製品効果でガスクロマトグラフが堅調であったことなどから、全体の売上は増加しました。



世界の医療現場で病気の早期発見・治療に貢献

■北米では、多目的に使用できるX線TVシステムが好調に推移しました。欧州では、操作性に優れた回診用装置の新製品が好評で、X線撮影システムが好調に推移しました。中国では、X線撮影システムが国産品優遇策の影響を受け減少したことに加え、X線TVシステムの案件の遅延により全体の売上は減少しました。東南アジアでは、大口案件もあり、X線TVシステムが好調でした。



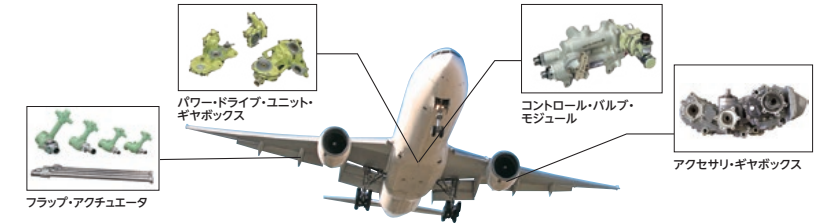
血管撮影システム

■日本では、被ばく量の低減と高画質に加え、操作性や検査効率を高めた血管撮影システムの新製品が好調で、また診療所向けのX線撮影システムが堅調に推移しました。



安全かつ快適なフライトに貢献

■北米では、中・小型旅客機の需要増加により売上は増加したものの、日本では、防衛省向け航空機搭載機器が減少し、全体としては低調に推移しました。



フラップ・アクチュエータ

アクセサリ・ギヤボックス



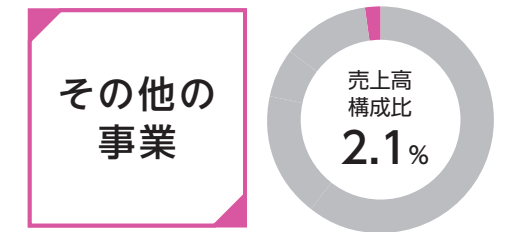
キーコンポーネントで産業に貢献

■ターボ分子ポンプは、日本・北米および中国で、半導体製造装置および薄膜太陽電池等コーティング装置向けを中心に製品販売が引き続き伸び、またサービス事業も北米および中国を中心に拡大しました。工業炉は、好調な工作機械向け工具需要を背景に日本を中心に海外でも増加しました。



ターボ分子ポンプ

■油圧機器は、中国のフォークリフト市場の拡大および日本・北米・欧州の底堅い需要により、引き続き堅調に推移しました。



SHIMADZUが拓く「質量分析」

創薬や食の安全、環境分析など幅広い分野で活躍

発展が続く質量分析計と島津

質量分析計(MS:Mass Spectrometer)は、高度化する創薬分野、監視対象物質が年々増え続ける環境分野、あるいは実用化が待たれるがん等の病気の早期診断支援などの分野で、重要かつ有望な分析手段として一層活躍の場を広げています。

当社は、1969年に欧州からの技術導入という形で質量分析事業に参入しました。以来、研究開発を重ね、技術力を高めると同時に、市場ニーズを反映したアプリケーションを積極的に開発し、多数の製品・ソフトウェアを展開してきました。現在当社は、世界有数の質量分析計メーカーとして、確固たる地位を築いています。

高度な研究を進める先端的企业や大学・大学病院、環境・食品等の検査機関などに、高付加価値の製品・サービスを提供するとともに、共同開発などを通じて世界各国の顧客との連携を深め、質量分析計の更なる発展に取り組んでいます。

近年、この質量分析計を用いて、大腸がんの早期診断支援の研究に取り組む一方、抹茶による認知機能低下の抑制を評価する臨床試験や、認知症の原因物質と言われるアミロイドβの蓄積度合いを分析する受託サービスを開始しています(11・12頁をご参照)。

近年の質量分析計の展開(右図をご参照)

特に2010年以降、当社は質量分析計の製品を連続的に投入し、事業の拡大を加速しています。

化合物の高感度分析を実現するトリプル四重極型の液体クロマトグラフ質量分析計(LC-MS)やガスクロマトグラフ質量分析計(GC-MS)および金属元素を分析するICP質量分析計(ICP-MS)などを順次投入し、今年6月には、国産初の四重極飛行時間型のLC-MSを発売しました

(10頁「注目新製品」をご参照)。今後はバイオ医薬品やオミックス(生体内分子情報の基礎研究)など最先端分野での展開を進めていきます。

質量分析事業の方向性

より精緻な分析を実現できる質量分析計の需要は今後も高まるものと見込まれています。

当社は、「高感度・高分解能の不断の追求」「装置の小型化、操作の簡易・省力化、AIによるデータ解析自動化の推進」「豊富なアプリケーションの構築」「最先端ヘルスケア技術の開発」を進め、質量分析計における圧倒的な競争力の実現と新規分野の開拓に全力で取り組んでいきます。

液体クロマトグラフ質量分析計(LC-MS)の展開(2010年以降)

国産初

トリプル四重極型LC-MS



LCMS-8030

2012

LCMS-8040
感度×5倍

2013

LCMS-8050
感度×30倍

2015



LCMS-8060
感度×90倍

2018



LCMS-9030

国産初

四重極
飛行時間型
LC-MS

高分解能

質量分析計とは?

質量分析計は、分析対象の化合物をイオン化した後、電気や磁気的作用によりイオンの質量を精密に測定する装置です。物質の同定や構造解析に有効な手段として、創薬や食品安全、環境など、幅広い分野で活躍しています。

質量分析計には、さまざまなタイプがあり、用途によって使い分けられます。トリプル四重極型質量分析計は、質量分析部2つと衝突室を組み合わせ、高性能化した装置で、薬物動態研究などでの高感度な定量分析が可能です。また、当社が新たに発売した四重極飛行時間型質量分析計は、イオンが質量に応じた速度で飛行する原理を利用して、特に精密な質量測定が可能で、複雑な化合物の高精度な定性定量分析で威力を発揮します。



注目新製品

高速液体クロマトグラフ質量分析計
「LCMS-9030」

国産初の四重極飛行時間型質量分析計を発売

2018年
6月
リリース



低分子の定量から高分子のタンパク質解析まで、複雑な化合物の高精度な定性・定量分析を実現。バイオ医薬品の研究開発における物質の特性解析、医薬品や化成品の不純物の構造解析、オミックス(生体内分子情報の基礎研究)でのバイオマーカー探索などで活躍。

ガスクロマトグラフ質量分析計
「GCMS-NXシリーズ」

3機種同時発売

2018年
9月
リリース



食品中の残留農薬や環境などの汚染物質の定量分析、化成品の品質管理、禁止薬物判定、香り・臭いの元となる成分分析など幅広い分野で活躍。

最高レベルの感度と再現性、また分析作業の効率化やメンテナンスのしやすさを実現。

2018年 6月 **抹茶の認知症予防効果を検証する共同研究**

当社および株式会社伊藤園、筑波大学発ベンチャーの株式会社MCBIの3社は、認知症の前段階にある軽度認知障害(MCI)*の患者を対象にした臨床試験「抹茶の認知機能の低下抑制を評価する試験」を共同で行っています。

近年、高齢化社会の進展に伴い、認知症高齢者の増加が懸念されています。これに対し、抹茶の成分であるテアニンは、ストレス緩和や睡眠改善に効果があり、カテキンは抗酸

化作用を有し、認知機能の低下抑制に効果があると報告されています。

本臨床試験を通じて、抹茶を摂取することで認知機能の低下抑制がみられることを明らかにし、飲料を含めた食事などの生活習慣の改善による認知症予防につなげていきたいと考えています。

*軽度認知障害(MCI)・・・物忘れは目立つものの、日常生活に大きな影響がない状態で、それ以外に認知機能の障害はみられず、健常と認知症の中間にいる状態をいいます。

抹茶と認知症関与物質との相関を総合的に解析する世界初の研究 (2018年11月~2019年10月)

研究目標:
抹茶の認知症予防効果の検証

被験者 軽度認知障害の男女約100人

- 研究グループ
- 株式会社伊藤園
 - 株式会社島津製作所
 - 株式会社MCBI
 - 医療法人社団創知会 朝田隆 理事長
 - 杉本八郎 客員教授(同志社大学)
 - 国内大学医療機関



1日当たり10杯程度の抹茶成分を摂取

12か月経過観察・測定

- 血中バイオマーカー検査
- 血中動態検査
- アミロイドPET
- fNIRS検査
- 睡眠調査

2018年 7月 **ターボ分子ポンプ事業の成長加速のためにドイツのサービス会社を買収**

当社は、欧州地域でターボ分子ポンプのサービスを手がけるドイツのinfraserv Vakuumservice GmbH社(以下:IVG社)の全株式を取得し、子会社としました。

AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)関連技術の発展によって成長が見込まれる半導体市場において、超高真空環境を作り出すターボ分子ポンプの需要が急増しています。

今後、ターボ分子ポンプ事業の拡大のためには、欧州での販売体制の強化と迅速なサポート体制の構築が欠かせませ

ん。IVG社は欧州の大手半導体メーカーや装置メーカーが使用する真空機器のサービスを手がけており、顧客との良好な関係性と高い技術レベルを有しています。

当社はIVG社の買収に伴い、欧州地域におけるターボ分子ポンプの販売・サービス体制を強化し、2022年度にはターボ分子ポンプ事業で連結売上高250億円を目指します。



ターボ分子ポンプ

2018年 8月 **アルツハイマー型認知症*の研究向けに受託分析サービスを開始**

注:本分析サービスは研究用途で、現時点では医療行為や診断用途に用いることはできません。

当社およびグループ会社の島津テクノリサーチは、アルツハイマー型認知症(以下、アルツハイマー病)に関する研究開発において、質量分析計を用いて血液から脳内のアミロイドβの蓄積度合いを推定する「アミロイドMS受託解析サービス」を開始しました。

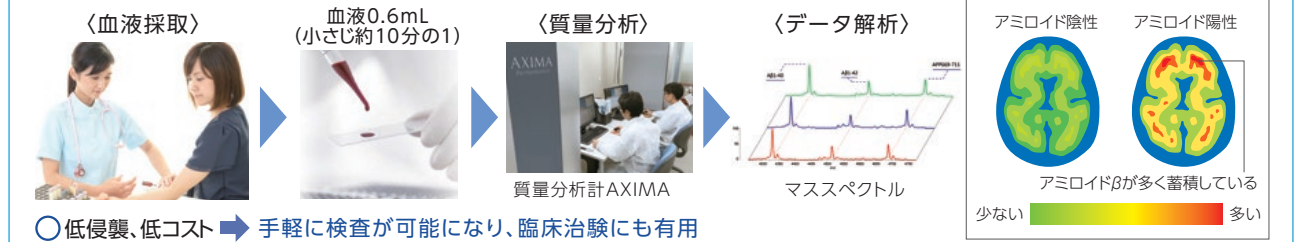
本サービスで用いる分析手法は、わずかな量の血液で

簡単に脳内のアミロイドβの蓄積度合いを推定できるため、被験者への負担が少ない点が特長です。

現時点ではアルツハイマー病に対する根本的な治療薬・予防法は存在しません。製薬企業や研究機関などに本サービスの利用を広め、治療薬および予防法の基礎研究や開発に貢献していきます。

*アルツハイマー型認知症・・・原因として有力であると考えられているのが、脳内に「アミロイドβ」というたんぱく質が蓄積していくことです。発症の20~30年前からアミロイドβが脳内に蓄積し始めると言われています。

アミロイドβの蓄積度合いを推定する分析方法



2018年 9月 **価値創造と社会課題の解決を目指す新研究棟を建設**

当社は、けいはんな学研都市の基盤技術研究所内に新研究棟「SHIMADZUみらい共創ラボ」を建設します。

棟内には、コア技術を深耕するためのエリアと、社内外との交流や協働からイノベーションを生むためのエリアを設置します。加えて、先端分析室やバイオ実験室、アイデアを素早く形にするための高速試作設備などを設置します。

同棟の新設により、先端分析をはじめ、脳や五感・革新バイオ、AI(人工知能)などの研究を推進するとともに、オープンイノベーションによる新たな価値の創造と社会課題の解決を目指します。



「SHIMADZUみらい共創ラボ」外観イメージ
着工は2019年7月、竣工は2020年8月を予定。

■株式の状況

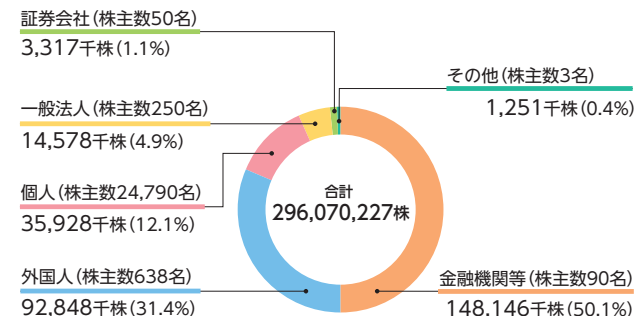
発行可能株式総数..... 800,000,000株
 発行済株式の総数..... 296,070,227株
 株主数..... 25,821名

■大株主 (上位10名)

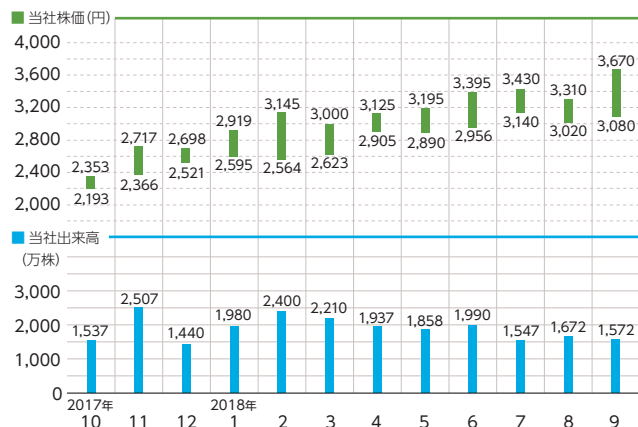
株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
明治安田生命保険相互会社	20,742	7.04
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	20,119	6.82
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	15,470	5.25
株式会社三菱UFJ銀行	7,672	2.60
太陽生命保険株式会社	7,411	2.51
東京海上日動火災保険株式会社	6,287	2.13
全国共済農業協同組合連合会	6,101	2.07
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	5,672	1.92
株式会社京都銀行	4,922	1.67
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	4,838	1.64

※持株比率は、自己株式(1,248,476株)を控除して計算しております。

■所有者別株式分布状況



■株価の推移 (東京証券取引所)



■会社概要

商号 株式会社島津製作所
 Shimadzu Corporation
 創業 明治8年(1875年)3月
 設立 大正6年(1917年)9月
 本社所在地 〒604-8511 京都市中京区西ノ京桑原町1番地
 電話075-823-1111(代表)
 資本金 26,648,899,574円
 従業員数 単独 3,399名 連結 12,420名
 連結子会社数 国内23社 海外52社

■主要な事業所

本社 京都市中京区西ノ京桑原町1番地
 支社 東京/関西(大阪市)
 支店 札幌/東北(仙台市)/つくば/
 北関東(さいたま市)/横浜/静岡/
 名古屋/京都/神戸/広島/
 四国(高松市)/九州(福岡市)
 工場 三条/紫野(いずれも京都市)/
 厚木(厚木市)/秦野(秦野市)/
 瀬田(大津市)
 研究所 基盤技術研究所(京都府精華町/京都市)
 田中耕一記念質量分析研究所(京都市)

■ホームページ、統合報告書、企業広告のご案内

ホームページ(島津製作所)
<https://www.shimadzu.co.jp/>

島津 統合報告書 2018
<https://www.shimadzu.co.jp/ir/library/annual.html>

企業広告
<https://www.youtube.com/watch?v=QhS2libtbFY>

左記のCM動画をご覧頂けます。



当社は乳がんの正しい知識を広め、検診の受診率向上に貢献するため、ピンクリボン活動を支援しています。

<https://www.shimadzu.co.jp/pinkribbon/>

当社オリジナルマスコットキャラクター



日本取引所グループ(JPX)と東京証券取引所、日本経済新聞社が、グローバルな投資基準に求められる諸条件を満たした企業を選定する目的で2014年から公表を開始した「JPX日経インデックス400」の構成銘柄に選定されています。



経済産業省が日本健康会議と共同で、優良な健康経営の施策を実施している大規模法人を認定する制度「健康経営優良法人2018(ホワイト500)」に2年連続で認定されています。



経済産業省と東京証券取引所が、全上場企業約3,500社の中から、業種ごとに、女性が働き続けるための環境整備を含め、女性活躍を積極的に推進する企業を選定する「なでしこ銘柄」に2年連続で認定されています。



「次世代育成支援対策推進法」に基づき、次世代の育成に向けての積極的な取り組みを行う企業として京都労働局から認定されています。

島津製作所
創業記念
資料館

株主様
無料入館券

本券1枚につき
4名様まで
無料で入館
頂けます。

2019年9月末
まで有効

キリトリ

島津製作所 創業記念資料館のご案内

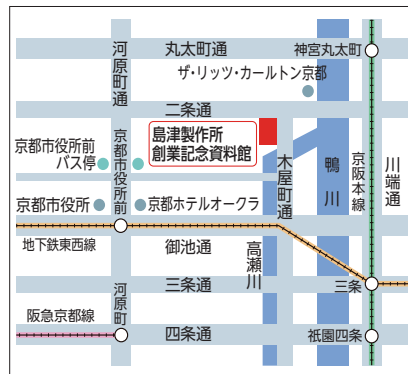
当館は、創業100年を迎えたことを記念し、創業者である初代と二代目島津源蔵の遺徳を偲び1975年に開設されました。館内には、創業以来製造してきた理化学器械、産業機器やX線装置ならびに事業活動に関連する文献・資料などを展示しており、島津製作所の歩みとともに、日本の近代科学技術の発展過程をご覧頂けます。



島津製作所 創業記念資料館 (登録有形文化財)

- 市バス「京都市役所前」下車徒歩約3分
- 京阪本線「三条駅」下車徒歩約7分
- 地下鉄東西線「京都市役所前駅」下車2番出口徒歩約3分
(地下鉄丸線「京都駅」より「丸丸御池駅」乗換、地下鉄東西線「京都市役所前駅」下車)
- JR「京都駅」よりタクシーで約20分

※当館には、駐車場がございません。あらかじめご了承ください。



T604-0921

京都市中京区木屋町二条南

●TEL/075-255-0980

●FAX/075-255-0985

●<https://www.shimadzu.co.jp/visionary/memorial-hall/>



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月

株主確定基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
(その他必要ある場合は、公告のうえ設定します。)

公告方法 電子公告とし、当社ホームページに掲載します。
<https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/ir/kk.html>
ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、京都新聞および日本経済新聞に掲載します。

1単元の株数 100株

株主名簿管理人
および特別口座の
口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話(通話料無料) **0120-094-777**
受付時間 9時～17時(土・日・祝日等を除く)

証券コード 7701

上場証券取引所 東証第一部

「配当金領収証」により配当金をお受け取りになられている株主の皆様へ

配当金は口座振込でも受け取ることができます。

配当金のお受け取りを、ご指定の銀行、または証券会社等の口座への振込にされますと、支払開始日に確実に入金されますので、大変便利です。

口座振込を希望される場合

- ①口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)にお申し出ください。
- ②証券会社に口座がない株主様は、左記三菱UFJ信託銀行株式会社[電話(通話料無料) **(0120-094-777)**]にお申し出ください。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。環境への配慮のため、責任ある森林からの原料を含む[FSC®認証紙]を使用し、植物油を用いた印刷をしています。

株式会社 島津製作所

<https://www.shimadzu.co.jp>